

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実																																																																		
一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	友だちとなかよくしていると思いますか。	豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)																																																																		
<table border="1"> <caption>Item 1: 一人一人の児童生徒の尊重</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>無回答</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>20%</td><td>70%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>45%</td><td>50%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>55%</td><td>40%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答	保護者	20%	70%	10%	0%	0%	生徒	45%	50%	5%	0%	0%	教職員	55%	40%	5%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 2: 友達への思いやり</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>無回答</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>55%</td><td>40%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>75%</td><td>20%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>20%</td><td>75%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答	保護者	55%	40%	5%	0%	0%	生徒	75%	20%	5%	0%	0%	教職員	20%	75%	5%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 3: 道徳・心の教育の充実</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>無回答</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>35%</td><td>55%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>45%</td><td>50%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答	保護者	35%	55%	10%	0%	0%	教職員	45%	50%	5%	0%	0%
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答																																																															
保護者	20%	70%	10%	0%	0%																																																															
生徒	45%	50%	5%	0%	0%																																																															
教職員	55%	40%	5%	0%	0%																																																															
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答																																																															
保護者	55%	40%	5%	0%	0%																																																															
生徒	75%	20%	5%	0%	0%																																																															
教職員	20%	75%	5%	0%	0%																																																															
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答																																																															
保護者	35%	55%	10%	0%	0%																																																															
教職員	45%	50%	5%	0%	0%																																																															

【学校から】それぞれの項目について、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の評価合計は、H29→H30の評価の比較でみると、「1、一人一人の生徒の尊重」についての割合が職員100%→100%、生徒91→94%、保護者89→91%。教職員は同ポイントで、生徒は3ポイント、保護者は2ポイント増加した。全てが90%を超えており良好に受け取られていることが分かった。また、「2、友だちへの思いやり」についての割合が職員90→98%、生徒98→98%、保護者96→99%。教職員は8ポイント、生徒は同ポイント、保護者は3ポイント増加した。数値が向上している点は良好であるが、生徒間のトラブルが無くなったわけではない。生徒が友だちだけではなく学級や部活動等、全体へ身近な者への思いやりを意識することができるようになれば、更に数値の向上につながるとともに、生徒間トラブルも減少してくると予想される。「道徳・心の教育」については、「3・4」の割合が職員100→100%、保護者93→93%。職員は、道徳の授業を充実させていることがわかる。今年度は「道徳の日」に北海道より講師を招き、命の大切さ・いじめの問題について公開授業をしていただいた。そのような取り組みにより、今年度の保護者の認識も「道徳の学習」については十分高く評価されている。「道徳の日」や通信等での啓発を通して、これからもさらに特別の教科「道徳」の大切さを保護者に理解していただくことが大切と考えられる。

②確かな学力を育む教育の推進

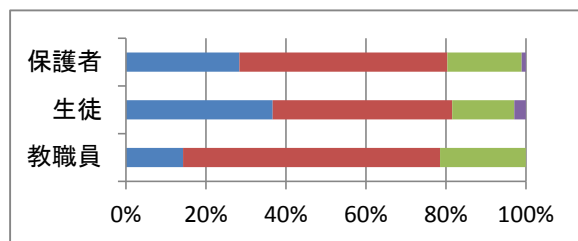
4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用																																																																								
意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。																																																																								
<table border="1"> <caption>Item 4: 意欲的な学習態度</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>無回答</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>30%</td><td>60%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>50%</td><td>45%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>10%</td><td>80%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答	保護者	30%	60%	10%	0%	0%	生徒	50%	45%	5%	0%	0%	教職員	10%	80%	10%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 5: 授業力向上</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>無回答</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>25%</td><td>65%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>30%</td><td>55%</td><td>15%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>30%</td><td>60%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答	保護者	25%	65%	10%	0%	0%	生徒	30%	55%	15%	0%	0%	教職員	30%	60%	10%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 6: ICT活用</caption> <thead> <tr><th>対象</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>無回答</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>35%</td><td>55%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>55%</td><td>40%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>60%</td><td>35%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答	保護者	35%	55%	10%	0%	0%	生徒	55%	40%	5%	0%	0%	教職員	60%	35%	5%	0%	0%
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答																																																																					
保護者	30%	60%	10%	0%	0%																																																																					
生徒	50%	45%	5%	0%	0%																																																																					
教職員	10%	80%	10%	0%	0%																																																																					
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答																																																																					
保護者	25%	65%	10%	0%	0%																																																																					
生徒	30%	55%	15%	0%	0%																																																																					
教職員	30%	60%	10%	0%	0%																																																																					
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答																																																																					
保護者	35%	55%	10%	0%	0%																																																																					
生徒	55%	40%	5%	0%	0%																																																																					
教職員	60%	35%	5%	0%	0%																																																																					

H29→H30の評価「3・4」の比較でみると、「意欲的な授業の取り組み」については、「3・4」の割合が職員78%→93%、生徒92→92%、保護者85→85%。職員の意識は格段に高まっている。研究を受け、職員研修を深め、学校の教具の充実によって、職員の研修意欲の向上に伴い、生徒の学習意欲の向上が感じられる結果となっている。生徒・保護者からは、ともに高い評価となっており研究推進によってさらに高まることが期待できる。「わかる楽しい授業づくり」については、「3・4」の割合が職員95→98%、生徒85→86%、保護者88→89%。三者ともに少しではあるが、評価の高まりが見られる。職員の意欲的な姿勢はもちろん、教育機器の充実、教材の工夫の姿勢が功を奏している結果と考えられる。さらに新学習指導要領の内容を各教科、学年等で深め、実践化していくことで「わかる楽しい授業づくり」へとつながっていくと考えられる。「ICT活用」については、「3・4」の割合が職員93→98%、生徒90→95%、保護者86→92%。タブレットや電子黒板等の導入により、授業形態自体が大きく変化しており、三者ともに、その実感が結果として表れていると考えられる。今後は、さらに、効果的なICT機器の活用を見出していく必要がある。

③ 健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

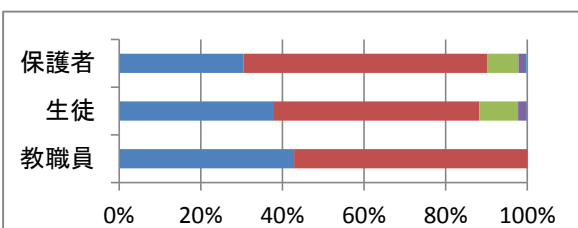


H29→H30の評価「3・4」の比較でみると、「健やかな体を育む教育の推進」については、「3・4」の割合が職員71%→79%、生徒83→82%、保護者78→80%。本年度は体育的行事の工夫をしたことにより体力テストの数値も向上した。また、委員会を通じた生徒活動により、「歯の健康」「心の健康」「睡眠や食、運動に関する健康集会」をはじめとした「健康に関わる行事」などの取り組みによって職員や保護者の評価が高くなっていると思われる。生徒の評価は高い数値で推移しているが、新たな取り組みをしていき、意欲を高めていく予定である。

① いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

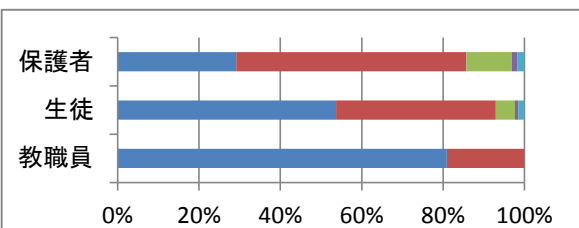
8 児童生徒理解

子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



9 いじめや問題への対応

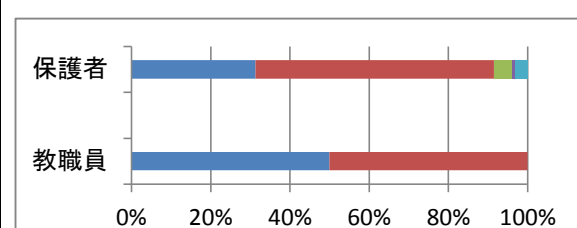
いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



② 特別支援教育の推進

10 学校の支援体制

支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



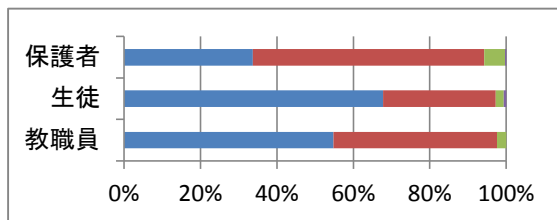
【学校から】それぞれの項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の評価合計は、H29→H30の評価の比較でみると、「8、児童生徒理解」については、職員100→100%、生徒84→88%、保護者88→90%。教職員は同ポイントで、生徒は4ポイント、保護者は2ポイント増加した。保護者と生徒の割合は増加しており三者の信頼関係が高まってきているように考えられる。職員間での情報の共有、生徒と向き合う時間の確保、教育相談の充実、生活ノートの活用等、実践を継続し、生徒と教師のより良い関係を継続していきたい。また、「9、いじめ問題の対応」についての割合が職員100→100%、生徒83→93%、保護者87→86%。教職員は同ポイント、生徒は10ポイント増加した。保護者は1ポイント減少した。問題行動が起きたときや、絆アンケート等での訴えを読み取り、学校では早急に対応し解決に至っている。家庭への報告や連携もスムーズに行っているが、結果1ポイント減少したことへの対策として、保護者へ更に丁寧な説明を心がける必要があると考えている。「学校の支援体制」については、「3・4」の割合が職員100→100%、保護者91→91%。毎週、生徒支援部会、登校支援委員会を開き、特別な支援を要する生徒について共通理解をし、取り組むことができている。また、学期ごとに特別支援教育推進委員会を行い、必要に応じてケース会議を行っている。保護者理解も昨年と同じであり、更に特別支援教育について啓発を進めていく必要がある。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

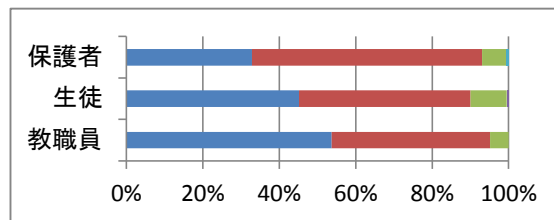
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



【学校から】「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の評価合計は、H29→H30の評価と比較みると、職員100→98%、生徒96→97%、保護者94→94%。昨年度から自転車乗用中の事故を減らすため、小中学校と地域の安全協会が連携し新たな交通指導を進めてきた。その結果、事故件数は大幅に減少した。特に1年生の事故件数は半減した。また、校内でけがをして保健室を利用する生徒数も減っている。これからも家庭や地域と連携し「交通事故や自然災害などによる傷害の防止」の学習を通し、安全で安心して生活できる環境づくりに努めていきたい。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

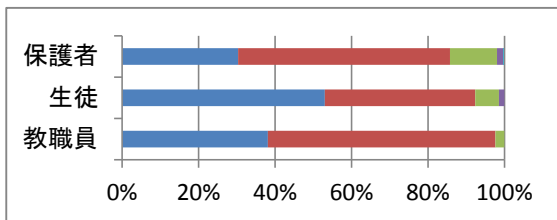


H29→H30の評価「3・4」の比較では施設設備の安全管理「3・4」の割合が職員98→95%、生徒92→90%、保護者94→94%。日常の安全点検をはじめとして、連絡報告を徹底することで、危険箇所の早期発見と修繕に心がけておいている。また、学期の反省で、自分の点検箇所だけでなく、気がついたところは、事務に連絡するなどして、さらなる安全に対する意識の向上に努めている。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示している。

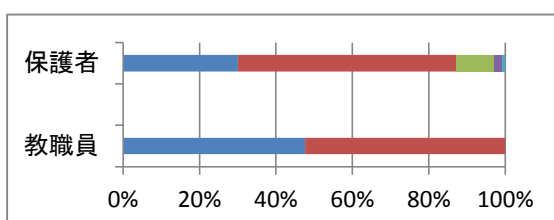


H29→H30の評価「3・4」の比較でみると、「教育目標や教育方針の周知」については、「3・4」の割合は職員98→98%、生徒93→92%、保護者86→87%。教室を始め校内の各所にある掲示物等に意識的な啓発の環境を作っており、生徒のみならず、保護者や校外からの訪問者に対しても情報を発信し、周知を図っている。三者共に高いポイントで推移している。

「家庭や地域との連携」については、「3・4」の割合は職員100→100%、保護者86→87%。育友会（PTA）の積極的な活動により、保護者と職員が連携して行事の運営や生徒の支援等ができています。同窓会や青少年育成協議会、民生委員児童委員といった地域の諸機関との連携も密である。

14 家庭や地域との連携協力

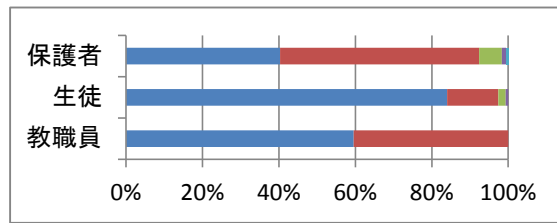
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



⑧本校の教育

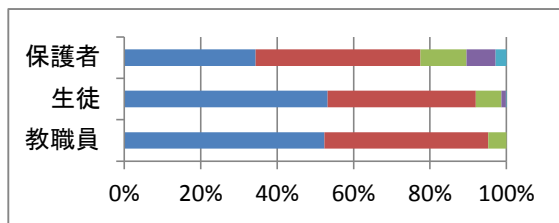
15 学校教育目標の理解

先生方は学校教育目標「花のある学校 文化のある学校 学びあいのある学校 これらが地域とともにある学校」を理解し取り組んでいると思いますか。



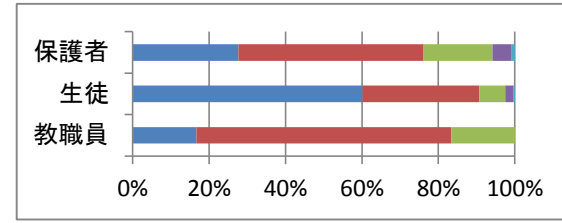
16 ESDにおける国の指定校の周知について

生徒たちは授業や生徒会活動等でSDGsの視点でESDについて取り組んでいますか。



17 自転車通学の事故防止

生徒たちは自転車の安全運転・通学路危険箇所を意識して登校していますか。



H29→H30の評価「3・4」の比較でみると、「学校教育目標の理解」については、「3・4」の割合が職員93→100%、生徒94→97%、保護者81→92%。昨年度と同様に様々な機会を捉えて意識付けを進めており、三者共に高いポイントに推移している。本年度新たに設けた以下の項目について見ると、「ESDの研究の周知」については、「3・4」の割合が職員95%、生徒92%、保護者77%。日頃よりの意識的な教育活動により、職員・生徒は共に高いポイントである。保護者に対しては、やや低いポイントであるので、今後、さらに保護者や地域全体へ向けたESDの浸透のため、生徒の手による学習活動の状況や様子を発信する等の工夫を行っていききたい。また「自転車通学の事故防止」については、「3・4」の割合が職員93%、生徒91%、保護者76%。職員・生徒のポイントに対して保護者のポイントが低い。昨年度に比べ、事故自体は少なくなったが、自転車に関するマナーや安全を自覚した行動は十分できていないといえない。今後の力を入れるべき課題といえる。安全教室を通して、さらに一人ひとりの自覚を促す指導が必要である。

来年度の具体的な取り組みについて

来年度の学校教育目標は「人とつながる 社会とつながる ESD」とし、研究主題と同じにしたいと思えます。これは目標なので思い描けるようなビジョンです。

ミッション(使命)は次のとおりです。ミッションのターゲットは生徒たちです。

- ・道徳性や正義感や自立心など豊かな人間性や社会性など身に付けた、やさしい生徒を育成する
- ・自ら考える力と創造力に満ちた知性を身に付けた、かしこい生徒を育成する。
- ・生涯にわたり健康で安全な生活を送ることができる、たくましく生きる生徒を育成する。
- ・ふるさとと世界に思いを馳せるグローバルな生徒を育成する。

です。本校の課題 ①不登校減少②社会に開かれた教育課程の実現、この為に学校目標とミッションを設定し、(課題解決力・創造力・協働力・キャリアプラン力)をつけていくと考えてください。

そして、現在の教育目標を学習活動のフィールドにしたいと思えます。◎花でつながる◎文化でつながる◎学び合いでつながる◎心でつながる◎地域とともにつながる

これらを通して、教育活動を展開したいと思います。

先生方には、この方向性を理解していただき、ご自分のポジション。いわゆる立ち位置を思い描いていただき、これからのアイデアを提案していただければと思います。 上野

学校関係者評価

学校が目指していることが、確実に一人でも多くの保護者、生徒に伝わっていれば、北部中は熊本で一番行きたい学校になると思えます。子供たちが心からの笑顔で毎日を過ごせる学校であってほしいと思えます。

驚くほど先生方が意欲的に取り組んでおられることに驚きます。モデル校として、生徒たちが、いかなる成長を遂げていくのかとても楽しみです。この子供たちが社会の出でいく頃には、どのような環境になっているのか、まだわからぬ所ではあるが、世の中の現状を見ます限り、とても楽観はできぬように思えます。意欲的で、強靱な精神力、打たれ強く、柔軟な思考力、思いやりの心旺盛な起業家精神が、この一連の教育で培われていくよう願う。